

2022年11月6日  
宮崎中部教会召天者記念礼拝  
牧師 乾元美

イザヤ書 32 : 15～20

フィリピの信徒への手紙 3 : 17～4 : 1

「本国は天にあり」

【前奏】

【招詞】 詩編 68 : 20～21

【祈祷】

【聖書】 イザヤ書 32 : 15～20、フィリピの信徒への手紙 3 : 17～4 : 1

【説教】 「本国は天にあり」

<召された方々を覚えて>

本日は、召天者記念礼拝です。わたしたちは、今ここで改めて、先に地上の歩みを終えて召された、愛する人々、大切な人々を覚えます。色々なあたたかい思い出。そして、地上での別れの悲しみ。召された方を覚えることは、わたしたちにとってとても大切な時ではありますが、同時に、寂しさを覚える時でもあります。

一人の、大切な方の存在を。確かに共に生きた、愛する人の存在を。わたしたちは心に思い起こします。

そしてまた、時代を共にすることはなかったけれども、同じこの教会に連なって歩んできた、多くの兄弟姉妹、信仰の先達たちのこともまた、心に思い巡らします。

召天者記念礼拝は、すべての命をお造りになった、命の支配者なる神さまが、召されたお一人お一人を愛し、救い、その人生を導いて下さったことを感謝して、礼拝する時です。

そして何より、この礼拝を通して、今ここに集うわたしたちが、信仰による希望を与えられ、慰めを与えられ、これからの歩みが、主によってますます強められることを、心から祈り願います。

<国籍は天に>

さて、今日の聖書の御言葉は、とても多くの人に愛されている箇所です。

「わたしたちの本国は、天にあります。」

少し古い口語訳聖書や、新しい翻訳の聖書では、「私たちの国籍は天にあります」となっていました。「私たちの国籍は天にあります。」

この、本国、とか国籍、と訳されている言葉は、本来は「市民権」という意味の言葉です。

その国や、その地域に属する一員であり、住んで生活する権利が与えられている。その国や地であって、財産や自由が保障されている、ということです。

つまり、わたしたちは、天に住むべきメンバーの一員である。天に、神の国に、住む権利を持っている。天にあるための、あらゆることが、保障されている、ということです。

これは、驚くべき宣言です。「わたしたちの本国は、国籍は、天にあります。」

そして、この御言葉は、愛する人を亡くした者に、大きな慰めを与えます。

地上から失われてしまった、その命、その姿、その存在。目で見て、語り合い、触れてきた人が、目の前からいなくなり、この目には見えなくなってしまいます。

亡くなったら、戸籍から名前が除かれます。世の中には、鬼の籍、と書いて鬼籍という言葉もあります。死んだ人の名簿のことです。もはや、世の中に籍はない。居場所はない。

いったい、どこへ行ってしまったのだろうか。人は死んだら、どこへ行くのだろうか。愛する人は、今どこにいるのだろうか。

このことは、信仰があっても、なくても、誰しもが考えてしまうことだと思えます。

しかし、これに聖書ははっきりと答えています。「わたしたちの本国は、国籍は、天にあります。」行くべきところは、天にある。帰るべきところは、天にある。

わたしたちの人生は、ただ死に向かっているのではない。地上の歩みを終えて、死が最後の場所なのではない。存在が消えて無くなるのでもない。更にその先に、神の国、天という、迎え入れられるところがある。そう聖書は語ります。

天、というのは、どこか空間的な場所のことではありません。天とは、時間も、空間も越えている、ということの意味しており、神さまのご支配を表す言葉です。

人が死ぬことを、「天に召される」と言います。地上の時間や空間の中から、神さまのご支配の中に移されるのです。神さまの御手の中に置かれるのです。

愛する者が、神の御手にあるならば。天に、神の御許に、その居場所が確保されていると知るならば。それは、愛する者を思うわたしたちにとって、とても大きな慰めです。

しかし、これは召された方たちのことだけを言っているではありません。

「わたしたちの本国は天にあります。」この言葉を、パウロは、フィリピにある教会の兄弟姉妹に語っているのです。

そしてこれは、今この教会に集っているわたしたちに対しても語られていることです。

今この地上に生きながら。日本の国民として、宮崎市の市民として、具体的なこの生活を営んでいながら。しかし、今ここで、あなたの本当の国籍は、天にあるのだ、と言われていくのです。

わたしたちは、この世に命を与えられて、戸籍を届けて、生まれてから死ぬまで、どこかに所属して、この地上を生きています。しかし、それらを超えて、あなたたちは天に属する者として、地上を生きています。今すでにここで、神の国の国民とされている。日々の生活の中にあっても、そこで神のご支配に生きています。そう言われているのです。

<イエスさまに十字架よって>

では、どのようにして、わたしたちは天の国籍を得たのでしょうか。

今日のフィリピの信徒への手紙の、少し前の箇所では、この手紙を書いたパウロが「自分がキリスト・イエスに捕らえられている」と語っているところがあります。

イエスさまに捕らえられている。あの、わたしたちの罪のために十字架で死に、そして死者の中から復活させられ、そして天に上げられたイエスさまに、この地上に生きている、今ここにわたしが、捕らえられているのです。

以前には、神さまに背き、自己中心的に歩み、罪に捕らわれ、死に支配され、悲惨の中に生きるしかなかったわたしたちです。神の国に入る権利など、一切持っていなかったわたしたちです。

しかし、そのようなわたしたちを愛し、憐れんで下さった父なる神さまが、神の御子イエスさまを、わたしたちの許に遣わして下さいました。神の御子イエスさまが、まことの人となって、この地上にまで来て下さいました。

そして、わたしたちの罪の裁きをすべて代わりに負って下さり、ご自分の十字架の死によって、わたしたちが支配されていた罪と死の力を、打ち破って下さったのです。そして、わたしたちの上に、神のご支配を打ち立てて下さったのです。

このようにして、イエスさまは、ご自分の神の御子の権利を捨てて、地上に降ってこられ、十字架に架けられました。そうして、地上のわたしたちに、神の子となる権利を、神の国の一員となる権利を、与えて下さったのです。

十字架の御許に招かれて、イエスさまの死にあずかって、わたしたちは神の国の市民権を得させていただいたのです。

<イエスさまの復活によって>

そして、20節以下にはこうありました。

「しかし、わたしたちの本国は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、わたしたちは待っています。キリストは、万物を支配下に置くことさえできる力によって、わたしたちの卑しい体を、御自分の栄光ある体と同じ形に変えてくださるのです。」

終わりの日に、主イエス・キリストは再び来られます。そして、そのすべてを支配なさる力によって、わたしたちの卑しい体を、ご自分の栄光ある体と同じ形に変えてくださる。わたしたちにも、復活の体を与え、神の国を受け継ぐにふさわしい者として下さるのです。

十字架の死を成し遂げられたイエスさまは、父なる神さまによって、死者の中から復活させられました。

それは、わたしたちもまた、復活へと至るためです。イエスさまが死者の中から復活なされたのは、わたしたちもまた、死者の中から復活させられることの、確かな保証です。

わたしたちが天に入り、復活することが出来るという保証は、まさに十字架の死から復活し、今は天におられる、そのイエスさまご自身なのです。

イエスさまに捕らえられ、救われたわたしたちには、そのような約束が与えられました。確かに、わたしたちは、イエスさまによって、天の国籍を持つ者とされたのです。神の国に入る権利が与えられたのです。そして、神の国を受け継ぐために、終わりの日に復活の体を与えられるという約束を、イエスさまの保証付きで、確かに与えられたのです。

天の国籍を持つものは、この終わりの日、復活の日にこそ、希望を置きます。

死がすべての終わりではないことを知っています。復活の希望があることを知っています。

すでに、先に召された者たちも。今ここに生きているわたしたちも。共にこのイエスさまに捕らえられ、共にこの天の国籍を持っており、共にこの復活の日、終わりの日を、待ち望んでいるのです。

#### <希望を見つめる>

地上には、多くの苦しみ、悲しみ、困難があります。死の現実も、わたしたちには大きく、重く、覆いかぶさってきます。信仰を与えられていても、わたしたちはやはり打ちひしがれ、崩れ落ち、倒れてしまうことが何度もあります。

しかし、どんなにままならない人生でも。どんなに困難の多い人生でも。わたしたちの歩みが、朽ちて消え失せて、死に飲み込まれてしまうことは、永遠に、決してありません。

わたしたちの国籍は、天にあるからです。わたしたちは、天に属するものだからです。わたしたちは、すべての支配者である、イエスさまのものだからです。

だから、この主にあってこそ、わたしたちはしっかりと立つことが出来るのです。

パウロは力強く命じました。4:1「だから、わたしが愛し、慕っている兄弟たち、わたしの喜びであり、冠である愛する人たち、このように主によってしっかりと立ちなさい。」

わたしたちは、地上の苦しみや困難の中にあっても、嘆きや悲しみにあっても、天を、イエスさまを、見上げることが出来ます。

たとえ地上の命を終えるとしても、それは死に属するのではないと知っています。生きていても、死んでも、わたしたちは神に属する者なのです。

そのことを知っているから、わたしたちは決して死によって絶望することはないし、召された愛する人のことも、安心して神さまの御手にお委ねすることが出来ます。

天におられるイエスさまを見つめるなら、わたしたちがイエスさまのものであるなら。わたしたちは、いつでも、どこでも、必ず救いと希望を見いだすことが出来るのです。

そして、召された者も、生きている者も、共に、天のイエスさまのご支配の中にあることを信じ、共に、終わりの日の復活を待ち望むのです。

…召された者たちは、神さまがその時をお定めになり、地上の歩みを終えました。そして、ここにいるわたしたちは、まだ、この地上の歩みを続けていかなければなりません。

それは、神さまの御心によって、この地にあつて、天に属する者として、わたしを救い、天へと道を拓き、復活の保障を与えてくださったイエスさまを、証しすることが求められているからです。

神の国に招かれている者たちに、イエスさまを伝えることを、救いの御言葉を伝えることを、いただいた愛を分かち合うことを、求められているからです。

わたしたちは、神さまが与えて下さるこの地上の日々を、神さまを礼拝しつつ、神さまに仕えるために、また隣人に仕えるために、喜んで、大切に、歩んでいきたいと願うのです。

### <聖餐の食卓>

今日は、聖餐の恵みにあずかります。わたしたちは地上にありながら、聖霊によって、天におられるイエスさまのご臨在と、親しい交わりとにあずかります。

聖餐は、確かにイエスさまのものとされていること。自分が天に国籍を持つ者であることを、目に見える御言葉であるパンと杯によって、この体全体で、確かにされる時です。

信仰の先達たちも、共にこの食卓に着いてきました。そして今わたしたちも、この食卓に共に着きます。そして、わたしたちの後に来たるべき人たちも、この聖餐に与っていきます。

すべてのものが、天におられるイエスさまの体と一つにされ、その交わりにあずかっていくのです。

この時わたしたちは、お一人のイエスさまの御許にあつて、時を超えて、場所も超えて、まことに一つにされています。

召された方々とも、ここにいる兄弟姉妹とも、わたしたちは、この聖餐の食卓を通して、天におられるイエスさまの体にあつて、共にいるのです。

やがて、わたしたちが生きている間か、死んでからかは分かりませんが、イエスさまがこの世に再び来られます。その終わりの日に、わたしたちは、復活の栄光の体を与えられ、覆いを外されたこの目で、栄光に満ちたこの体で、復活のイエスさまと見えます。そして、すべての愛する兄弟姉妹と共に、天の主の食卓に着くのです。

その日まで、この地上の聖餐の食卓は、来たるべき日の、天においてあずかる主の食卓の先取りです。わたしたちは、心を地上ではなく、天に向けて、心を高くあげて、今、この恵みにあずかりたいと願います。

そして、まだ洗礼を受けていない方々が、共に主の体に結ばれて、この恵みの食卓にあずかり、「わたしたちの本国は天にあります」との確信を与えられますようにと祈ります。

イエスさまが、必ずその御手によって、捕らえて下さいます。

**【お祈り】**

天の父なる神さま

すでに召されたわたしたちの愛する人々も、そしてここにいるわたしたちも、天におられるイエスさまに捕らえられていることを信じます。わたしたちの本国が、国籍が、天に置かれていることを信じます。生きるにも、死ぬにも、わたしたちは天におられる、復活の主のご支配の中にあることを信じます。

どうかその恵みによって、わたしたちをしっかりと立たせて下さい。そして、愛する者を覚えて、悲しみや寂しさを覚えているお一人お一人に、慰めと、平安を与えて下さい。

そして、やがて来たるべき終わりの日に、すべての者が主にあつて、共に復活に与り、天の国の、主の食卓に与る日を、希望を持って待ち望ませて下さい。

また、これからまだ地上の日々を歩いて行くわたしたちを、どうか強め、励まして下さい。イエスさまの救いの恵みを、喜びを、証ししていくことが出来ますように。

そして、イエスさまがその御手によって、一人でも多くの者を捕らえて下さり、十字架の罪の贖いと、復活の約束を信じる者へと導いて下さいますように。

このお祈りを復活の主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

**【讃美歌】** 528 「あなたの道を」

**【信仰告白】** 使徒信条

**【聖餐】**

**【讃美歌】** 77 「パンくずさえ拾うにも」

**【献金】**

**【主の祈り】**

**【讃美歌】** 24 「たたえよ主の民」

**【祝福】** 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、  
あなたがた一同と共にあるように。アーメン